

| | | | |
|-----|--------------------------------------|-----|--------------|
| 学校名 | さいたまけんりつさかどにしこうとうがっこう 埼玉県立坂戸西高等学校 | 校長名 | 久保 正美 |
| 所在地 | 〒350-0245 坂戸市四日市場 101 | TEL | 049-286-9473 |
| | | FAX | 049-279-1009 |

1. 研究主題

坂戸西の生徒であることの自覚と誇りを持たせる体育授業の実践

「こころを育てる体力づくり」

2. 研究の期間

平成20年度～22年度

3. 研究主題設定の理由

本校生徒の体力については、全国平均や県平均と比較してかなり高い水準を維持してきている。とりわけ、持久走については県内トップレベルの記録である。このことについて、本校体育科では授業においてクラスの心をつなぐ集団行動を徹底することや年間100km以上を走る目標を達成すること、クラスのリーダーである体育委員を中心に本校が誇りとする体育祭を作り上げることなどにより達成できていると考えている。

研究委嘱の2年間においては、これまで本校で築いてきた体育授業の実践や体育的諸活動の取組について検証するとともに、全校生徒に対して体力向上や心の成長等に関するアンケートを実施することにより更なる教育活動の充実を図ろうとするものである。

以上の理由により研究主題「坂西の生徒であることの自覚と誇りを持たせる体育授業の実践」～こころを育てる体力づくり～を設定した。

4. 研究実践の概要

(1) 心をつなぐ集団行動

坂西の体育では「体力の向上は継続的に行う規律正しい学習態度から」を最大限に重んじた授業を展開している。

このことを実践するための方策として『心をつなぐ集団行動』の徹底を図っている。

(2) 日本一を目指す体育祭

本校の体育祭は、リーダーを育成していくことを一つの目標にしている。

本年9月30日の埼玉新聞では、『誇りの行事に学校一丸』『盛大に「日本一の体育祭」』と紙面に大きく掲載され脚光を浴びた。

(3) 坂西をリードする体育委員の育成

リーダーの資質がその集団の行動クオリティを大きく左右する要素であることを認識させ、それに足るリーダーを育成することを目指している。本校の体育委員は、体育授業時の連絡や集団行動の号令指揮にとどまらず、学校行事の全てのイベントにおいて、中心となってクラスや年次、学校全体をリードする。

(4) 年間総計100kmを走る

本校の体育授業では、年間100km以上を走ることを目指している。

「長距離を走る」を習慣づけることは、「体力の向上」と「精神的持久力」の向上につながる。毎日の継続的な「生活規律」「学習規律」を実践する中に「走運動」を多く取り入れることで『走ること』を苦にしない生徒が育ってくる。

(5) 体育的部活動のけが防止プログラムの実施

平成21年度日本スポーツ振興センター主催の「体育的部活動のけが防止プログラム」を研究協力校として実施している。

この事業は、学校の管理下における事故災害の減少を図る観点から、災害共済給付業務の実施を通じて得られた災害事例等を分析し、学校における特徴的な災害について、その発生防止方策（けが防止プログラム）の調査研究を行うものである。

(6) スポーツ環境の整備

ア 平成20年度県立高校教育活動総合支援事業委嘱を受け、トレーニング機器を導入し、運動部活動におけるさらなる競技力の向上を図っている。

イ 平成21年度スポーツスペシャリスト外部指導者サポート事業の委嘱を受け、専門家によるトレーニングの理論と実践の指導を受けている。

ウ 平成21年度おもいきりスポーツ外部指導者サポート事業を活用して、陸上部とサッカー部に外部指導者を配置している。

(7) 生徒意識アンケート調査の実施

平成21年度10月上旬に全校生徒を対象にアンケート調査を実施した。

この調査は、本校での活動が自己の精神的成長に

どのように影響しているか、またそのことを生活面にどのように生かしていきたいか等を深入り、体力の向上と心の発達(成長)がどのような関係にあるかを調べるものである。

5 研究実践の成果

(1) 新体力テスト5段階評価

全県との比較においては、5段階評価「A」ランクの人数で、本校47.9%、県平均21.3%、「A」+「B」ランクの割合も本校83.2%で、県平均の54.9%を大きく上回っている。(表1)

【表1 5段階評価における県との比較】

(2) 新体力テスト種目別比較

平成20年度の本校平均値と県平均値との比較一覧表を見ると、本校の値は、8種目・3学年・男女の48項目全てにおいて県平均値を上回っている。特に、持久走においては、2年次生女子が目標に2.9秒足りなかったが、全男子と1・3年次女子は県平均を30秒以上上回る結果が出せた。(表2)

【表2 本校平均値と県平均値との比較一覧表】

6 生徒意識アンケート調査結果

(1) 本校受験の志望順位

「第1希望」 : 86%

(2) 中学時代の大会実績

「地区大会止まり」 : 62%

(3) 体育・スポーツの好感度

「体育・スポーツが好き」 : 70%

(4) 体育授業の運動量

「十分豊富」「ほぼ豊富」 : 86%

(5) 体育授業での体力向上度

「向上した」 : 65%

(6) 高校生活全体での体力向上度

「向上した」 : 80%

(7) 体力が向上したと思える場面

「部活動」「体育授業」 : 93%

(8) 集団行動の学校や家庭・地域への影響度

「プラスに影響している」 : 65%

(9) 体育指導者から受け取っている事柄

「坂西生としての在り方」 : 36%

(10) 部活動指導者から受け取っている事柄

「技術の向上に関すること」 : 55%

7 まとめ

(1) 坂西生の資質

部活動が強く学校行事が盛んであるという坂西高校の校風を理解して、運動資質では極一般的な中学生たちが、積極的に坂西高校を希望して入学してきている。

(2) 生徒の身体的・精神的変化

本校の体力向上の両輪である「体育授業」と「部活動」が生徒の身体的資質を高めている。

また、体育授業で受け取っている事柄の筆頭に「坂西生としての在り方」が36%、集団行動の学校や家庭・地域への影響度では「プラスに影響している」と65%の生徒が答えている。この心の在り方が高校生として本来あるべき生活規律・学習規律を実現させている。

(3) 坂西高校の体力づくり

本校体育の教科目標である「心をつなぐ 集団行動の徹底」の集大成が全校生徒が誇りとする『坂西体育祭』である。

体育祭を目標に生徒は、「集まり」「声を出し」「心を合わせ」「走り」「鍛え」「努力」する。

体育委員をリーダーとした、決して負けることのできないこの全校レベルの取り組みが、坂西生の心を育て体力を高めていく。

『坂西の生徒であることの自覚と誇りを 持たせる体育授業の実践』が、正にここに結実していると言える。

教育改革や少子化など急激な社会の変化を迎えている今、近い将来、本校に入学してくる生徒像も変わってくるに違いない。

どんな時代においても生徒が学校を作っていくことに変わりはないが、子を預かる教員が、生徒の資質を高めていく努力を怠ってはいけない。この緊張感があってこそ、今まで築き上げられてきた校風が維持され、更なる教育活動の充実が図れるものと確信する。

『コツコツときたえた体はたからもの』
県の体力向上に向けた合い言葉である。この標語は坂西高校における毎日の実践そのものでもある。

私たち体育科スタッフは、坂西の教員であることを誇りに思うと同時に、今後とも、坂西高校が教育立県埼玉のマイルストーンとなるよう研鑽を積んでいく覚悟である。

(文責 : 体育科 赤木秀次)